

有限会社 綵巧

伝統工芸品くみひも「三軸組織（さんじくくみおり）」による創作裂地の製織

弊社独自の世界に2台しかない大型環状織機により製織加工される伝統工芸京くみひもの技術を取り入れた「三軸組織」と称する和装生地。この織機を新設備に進化させることにより他社では不可能な立体的筒型くみひも生地が製織可能になり、国内外を問わず様々な分野で活用されることにより「和」の伝統を生かした販路及び売上増につなげていく。

■ 代表者	代表取締役 室門 恒明	■ 所在地	〒603-8222 京都市北区平野宮本町85
■ 設立	昭和45年11月26日	■ 実施場所	〒621-0024 亀岡市曾我部町西条下千代10-4
■ 資本金	3,000千円	■ TEL/FAX	TEL. 075-465-0718 / FAX. 075-465-0719
■ 従業員数	10人	■ URL	https://nishijinori-saiko.jp/
■ 業 種	繊維工業	■ E-mail	info@nishijinori-saiko.jp

目的、取組のきっかけ

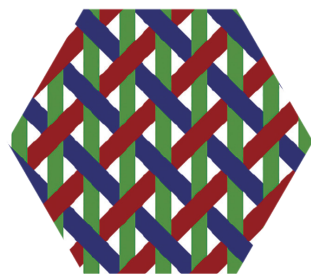
◆ 三軸組織（さんじくくみおり）®とは

当社は、「他社にはマネのできない物づくり」をモットーとして、オンリーワンの技術を追求していますが、そのひとつが三軸組織®です。

三軸組織®は、千年以上前から京都に伝わる「京くみひも」技術と、イタリアのトーションレースの技法との融合によって生まれた織物です。

通常の織物生地が経（たて）・緯（よこ）直角に交差する糸で織られるのに対し、三軸組織®は、真っすぐな経糸に対して、さらに二本の経糸が二方向から斜め45度の角度で交差するという複雑な技法で織り上げられる織物です。

通常の織物に比べて、緩まず、シワにもなりにくく、多彩な色糸を使用することで微妙なグラデーションを表現でき、独特の光沢を放つことも特徴です。



「三軸組織®」のイメージ

◆ 大型環状織機

三軸組織®は、大型環状織機によってのみ製織できる技法で、現存するのは当社が保有する2台だけです。

50年以上前に製造され、老朽化が進んでいましたが、図面や交換部品も存在せず、修理も困難な状況でした。

そんな折、京都市が地元産業の海外事業支援を行うことを知りました。

和装業界全体の需要も落ち込み、新しいものへの挑戦を模索しているところでしたので、この大型環状織機を進化させ、海外向けに三軸組織®を洋装生地としても展開できないか考えたのがきっかけです。

取組内容

◆ 事業取り組みの経緯

この織機は和装用途向けのため30cmの生地巾しかできず、洋装対応の為には広巾生地や立体的筒型生地の製作が必要でした。

それには、多額の改良費用の捻出が課題でしたが、偶然ものづくり補助金の存在を知り、無我夢中で申請書を書き、幸いにも補助事業に採択されたことにより、資金調達のめどは立ちました。

次に、機械製造元での改良対応が困難なため、設備に対する知見を持った新たな外部の機械整備士を探し出し、部品づくりから始め、社内外が共同で試行錯誤を重ね、ようやく製品を作れる段階にまで至りました。



大型環状織機

◆ 品質向上に資する社内一貫生産体制

三軸組織®は、その風合いや付け心地のよさなどから、日本国内はもちろん、アパレルや洋装小物の生地として海外の有名ブランドなどにも採用され、評価を高めてきました。

しかし、大型環状織機で満足な製織を行うためには、単なる稼働にとどまらず、周囲のさまざまな技術を組み合わせる必要があります。

まず、原料となる絹糸は、指定工場での国内撚糸にこだわっており、用途に合わせた高品質の絹糸を使用するとともに、染色も三軸組織を熟知した当社の指定工場で行われ、その色数は数千通りにも及びます。

次に、大型環状織機は合計480個のボビンを使用する

企業概要

昭和24年室門機業店として京都市北区で創業し、現在は、自社設備のみで一貫して製織できる数少ない西陣織織元として、きもの、帯、和装裂地などの生地素材を亀岡工場、原谷工場、加悦協力工場で製造しています。

主要製品

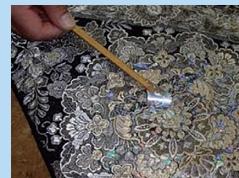
- ・「三軸組織®」、デザインから製織まで自社で手掛ける織りきもの「西陣御召」、広巾織機による細かなデザインが特徴のバッグや履物・人形等向けの和装裂地、金彩加工と織物技術を併用して映し出す「織り金彩」、広巾四重経手機織機による「西陣博鳳唐緒緞通」など。



三軸組織



博鳳唐緒緞通



織り金彩

ため、束ねる絹糸の本数・長さ・色等を調整しつつ均一になるように巻き取る「経尺（へじゃく）」という前工程が重要で、豊富な経験と高度な技術を持つ社内の担当者が行います。

また、この織機には図柄を織り込む8台のジャガード装置が付属していますが、所定の作動を指示するために紋紙が8組必要で、一つの柄で千枚以上になることもあり、すべて社内で制作しています。

そのほか、図柄の企画・デザインや織機の操作などもすべて社内で行い、撚糸・染色以外の工程をすべて社内で一貫して完成できるのが特徴であり、強みです。



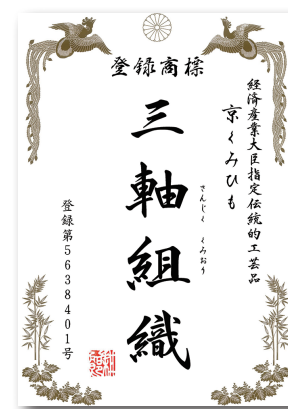
使用される染糸

成果と今後の展開

◆ 綵巧ブランドの確立

和装業界自体は需要停滞や後継者不足により衰退産業に位置付けられているのが実情です。

そうしたなかで、当社しか製造できない唯一無二の製品として取り組んだ三軸組織®が海外で紹介されたことにより、主力である和装品の販売にも好影響を与



「三軸組織®」登録商標

主要取引先

きものメーカー、産地問屋、バッグメーカーなど

主な保有設備

大型環状織機	……………	2台
両十二丁（りょうじゅうにちょう）力織機	……………	11台
広巾四重経手機織（よんじゅうたてており）	……………	1台
広巾レピア織機	……………	5台

え、当社の知名度は上昇しており、さらに、すべての製品に「綵巧」ラベルを貼付することで製品価値の向上とブランド化を進めていきます。



洋装商品例（バッグ・ショール）

◆ 生産体制の維持

大型環状織機の改良当初は、複雑な機構に起因する作動トラブルや品質向上への課題もありましたが、社内で主体的に取り組んだ結果、ノウハウも蓄積完成され、メンテナンスをすべて社内で行えるため、当面の稼働については不安がありません。

また、自社一貫生産で、すべての工程が経験できるため、社員教育には最適で、若手も育ちつつあります。

ただ、業界全体を見渡すと、職人の高齢化で廃業などが進展しつつあり、このままではいずれ外注先に影響が出る可能性もあり、社内・社外双方の技術伝承について継続的に検討していくことが大きな課題です。

◆ オンリーワンの確立へ

現在、三軸組織®は帯地やコート地のほか、他社と提携したバッグやバースケース等の和装小物の生地としても好評を博していますが、事業規模拡大の余地は大きいと考えられます。

今後は、耐摩耗・防しわ・光沢などの特徴を生かし、異業種での活用提案や、30cm以上の広巾にも対応する新たな洋装生地開発なども積極的に行い、オンリーワンの確立をめざしていく所存です。